

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R5 入学 現3年生	国語		数学		理科
	2年時	3年時	2年時	3年時	3年時
	県	全国	県	全国	全国
	54.6%	48.0%	44.7%	34.0%	455
	(0.88)	(0.91)	(0.84)	(0.77)	
R7 正答率の全国比		0.88		0.70	

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和7年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

◎「中学校理科」は、IRT（項目反応理論）に基づいて算出したIRTスコアを表示。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・本校の平均正答率と県平均正答率において、国語では差が小さくなり、数学では広がっている。理科はほぼ同じである。
- ・国語、数学ともに選択式・短答式の問題で無解答率が低く、記述式の問題では高くなっている。
- ・自分の言葉を使って説明する問題において正答率が低く、無解答率が高くなっており、学校全体で苦手意識が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業中に、基礎基本の学力を定着させるための小テストを計画的に実施する。また、小テストの成果を分析し、授業方法や教材作成の工夫へつなげる。
- ・4月当初に作成し、生徒へ提示した各教科の学習シラバスの内容を見直し、生徒の実態に合わせて軌道修正を加える。
- ・同一教科だけでなく同一学年の授業を担当する授業者同士で、授業の進捗状況や、生徒の学習状況について情報を共有し、各学年及び各クラスに応じた授業づくりへつなげる。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・週4日の「学習タイム」を今年度より15分と設定した。アンケートにおいて学習タイムが学力向上につながったと肯定的にとらえている生徒の割合は約75%である。学習タイムへの取り組み方自体について工夫を深める。
- ・「読み取りタイム」では、各学年の状況に合わせて取り組む頻度や取り組み方を設定し、認知力や読解力の向上を目指す。